

農薬の残留毒性に思う

昔は人間も裸で暮らし、山野に自生する木の果実や草の穂をとり、あるいは鳥獣を捕えて食い、毎日を送っていたに違いない。ようやく人口も増え、生活のための資材への量および質への要求も高まって、自然物を集めてくるだけでは人類の要望を満たすことが出来なくなって、自ら求める動植物を意識的に保護し、その繁殖を促がし、さらに積極的にこのような植物を栽培し、動物を飼育し、ここに農林畜産業を生じたと違いない。比較的今日もなお昔の状態に近いままに残されている水産業を見れば、この想像は恐らく間違っていないだろう。

そこで、自然の山野を開墾して畑や水田を作り、牧草地や森林を作り出した。この自然の破壊の程度は、今日のように急激なものでなかったから、これによってそう大きな災害を招いたというようなことはなかったかも知れないが、それでもこれが、あるいは水害をもたらし、あるいはエロージョンをもたらし、我々の祖先を悩まし続けたであろう。しかし、賢明な我等祖先は、あるいはこれを神の怒りとして恐れたかも知れないが、なおこれに弛まず、今日の世界を開拓して行った。

だから、我々60才を越した位の人間が子供の時分から見慣れた事象を、つい太古からの自然の有様と感違いしやすいが、それは我々祖先が築き上げた地表面の人間の目的への利用の結果生じた事象である場合が多いのではないだろうか。農薬の利用によってアカトンボが減った、ドジョウが減ったという。その減る前の状態は、我々祖先が作った膨大な水田というものに起因しているに違いない。

目 次

休耕田と雑草対策

九州農業試験場作物第2部

野 田 健 児…………… 2

カキの摘果剤について

新潟県農業試験場佐渡支場

伊 藤 四 郎…………… 8

昭和44年度畑作用除草剤・

生育調節剤試験成績概要

(財) 日本植物調節剤研究協会… 15

新除草・調節剤

・ P L 除草剤…………… 23

・ S L D - 6 9 5 除草剤…………… 23

・ C M P T 除草剤…………… 24

お知らせ

次号は、花粉公害問題を取りあげ、特集号としますので、よろしくお願いします。

今日ほど農薬の残留毒性の問題が喧ましい時代はない。しかし、この毒性を単なる神の怒りとして恐れ、その使用を尻込みしているのでは、人口の増加も、飢餓解消も望むことは出来ない。また非文明時代の赤ん坊の間引きや姥捨山でも再現しなくては、生きて行けなくなる。残留毒性解決こそ我々に課せられ、解決して行かなければならない問題であり、その昔我々祖先が山野の開墾に踏み切った勇気をもってこれに当たらなければならない。

日本植物調節剤研究協会会長 河 田 党